江差町立南が丘小学校　　研究部通信

南小たば風通信　２０１８

平成３０年１０月１０日（水）　第２３号

岩見沢市立南小学校公開研究会　参加レポート

１．はじめに

９月２８日（金）岩見沢市立南小学校で開催された研究大会（参加者１５０人）に参加してきました。当日は，前期最終日であり，皆様にたくさんのご迷惑をお掛けしてしまい申し訳ございませんでした。お陰様で，多くのことを吸収することができました。感謝いたします。

南小学校の研究テーマは**『主体性・協働性を活かし，深い学びを実践する子どもの育成』～教えて考えさせる授業づくりを通して～**でした。この学校は，学校力向上に関する総合実践事業指定校であり，「教えて考えさせる授業（以下ＯＫＪ）」の推進校であす。そのことから，本校以外で「学校力×ＯＫＪを展開している学校を見てみたい！」と私がわがままを言って参加させていただきました。

以下，研究大会に参加して勉強になったところを紹介いたします。ＯＫＪ２年目の未熟者が見てきたものを記したレポートですので，今さら的な所が幾つかあるかもしれませんが，「理解確認」のつもりでお読みいただければと思います。

２．ここがスゴい！～「南小」の組織，先生方，そして子どもたち～

岩見沢南小ということで，南小…。「南小の～」という言葉を何度も聞きながら違和感なく１日を過ごさせていただきました。その南小のすごかったところを紹介させていただきます。

（１）昨年度全国学力学習状況調査の結果について（詳しくは，研究概要・資料集をご覧ください。）

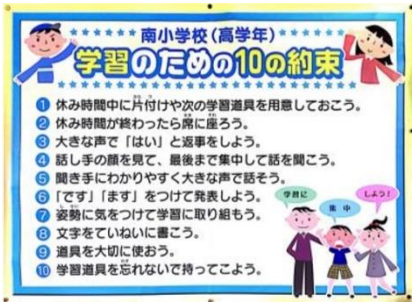
全国の平均（１００）と比べて南小は，国語Ａ（１０８）国語Ｂ（１０９）算数Ａ（１０９）算数Ｂ（１１５）として，平均を上回っている（過去３年間の結果を見ても高い数値が出ている）。

（２）ＯＫＪや学校力継続としての継承意識の高さ

今年度の校内研１回目の授業が４月９日に行われたそうです。理由は，赴任者や初任者にＯＫＪの授業や研究について理解してもらえるように設定しているとのことでした。

初任者に対しても毎週金曜日に学習会を設けて学級経営や指導方法，学級通信の書き方に至るまで手厚くフォローしているとのことでした。

（３）スタンダードの徹底



南小は，１０の約束（右図）を設けていますが，その中でも姿勢については驚かされました。「立腰」を全クラスで掲示し，正しい姿勢が取れていない児童を探す方が大変なくらい終始よい姿勢を保持していました。授業中も乱れている子どもにはすぐに姿勢を正すように指導していました。

その他にも，大きな声で挨拶をしたり，話し手の方を見て発表を聞いたりしている様子も立派でした。廊下ですれ違う子どもたちも笑顔で元気にあいさつしてくれました。授業開始や終了の挨拶は，大きな声であいさつしており，部活のような活気があふれていました。（大きな声を出せばよいのか？ということはありますが，嫌な感じは受けませんでした。）本校の子どもたちも立派なあいさつですが，それ以上と感じました。

３．公開授業①５年竹組　　立場を変えて書きかえよう 「大造じいさんとガン」

国語科もＯＫＪで授業されているということです。本時は，山場（クライマックス場面）を見つけるという時間でした。工夫されていた所を紹介します。詳しい流れは指導案をご覧ください。

★分かる授業化
①山場という言葉と意味を教える。
②大造じいさんの台詞や心情が書かれたカードを黒板に貼りながら、大造じいさんの気持ちレベルを全体確認する。（道徳の心情メーターみたいでした：下記写真参照）
→自力解決前に、前時までに押さえた大造じいさんの心情を表すキーとなるセリフや表現を提示したことで、内容を思い出させると共に、これから山場を見つけさせる上でどこの場面なのか、どのカードに近いのか？挙手させ、想起させて「自分自身で見つけられるように」アシストしていた。
③その後で、教科書に、山場だと思うところ３カ所に小さい付箋を貼らせる。
④その３つの中で一番、山場だと思うところを選ばせる。
⑤選んだあとに、理由をつけて文章化させるが、教科書の例文をみんなで確認をして作業内容を押さえてから作業に入らせるようにする。
⑥作業をさせながら教師は、板書に教科書の見本例文で示されている型を書き、作業内容が何か分かるように残していた(時間の削減：下記写真参照)。その後，個別支援にまわっていた。
※「ここが大事」については、系統性をもたせ、全学年で意図的に指導する際に活用していることが研究発表で明らかになり納得しました。
補足：前時までの所で，教科書内に大造じいさんが主語となる文は赤の直線で，ガンが主語になる文は青の直線が引かれていた。情景描写は四角く囲ませていた。

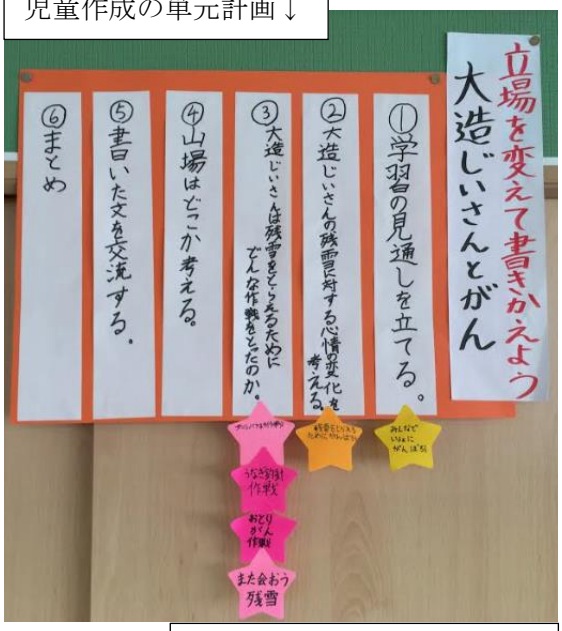
★主体性を育む工夫①～授業に向かわせる環境整備～
・集中力を高めるための「立腰」を徹底していると話していた。(授業中も立腰ができていなかったらすかさず指導していた)
・教科書の持ち方。
・話し手に身体を向けること。
・机上に出しているもの、置き場所。
それらスタンダードを徹底して落ち着いた授業環境と分かる授業によって、みんなを授業に向かわせている，主体性を支えている様子だった。
・考えが思いつかない児童に先生は回って指導していた。
・単元の指導計画が子どもたちの字で書かれていたところにも主体的な要素が隠れていた。本校でもピクトグラムを子どもたちが意識できるようになることで、主体性を高められると以前に話していたことに近い？
・ＯＫＪ探求型は，児童に課題を見出させて計画させることもあるので、その意識からか…

★主体性を育む工夫②～子ども達の様子～
◎グループ交流の意義を一人ひとりが理解し，対話することを楽しんでいる様子だった。
・聞き手は，もちろん集中していた。話し手に身体を向けて聞き入る様子が多々あった。
・ふりかえりでは，書けた人から、ギャラリーウォークで友だちのふりかえりを交流。
「山場としているところが違うところに気づき、みんなの山場をもっと交流したかった。」や
「同じ山場でも、理由(考え方)が違うことに対して「たしかに」「なるほど」と納得できた。」など、

普段から友だちの考えをしっかりと聞いて、自分の学習に生かしている様子がとても伝わってきた。
→友だちの考えを知ること，対話することのよさを毎時間の授業の中で味わっている様子だった。
そのように交流したり協働的に学習したりすることのよさや意義を理解することが主体性を生む
きっかけとなっているように感じた。

↑立腰×教科書の持ち方

児童作成の単元計画↓



振り返りのポイント掲示↓

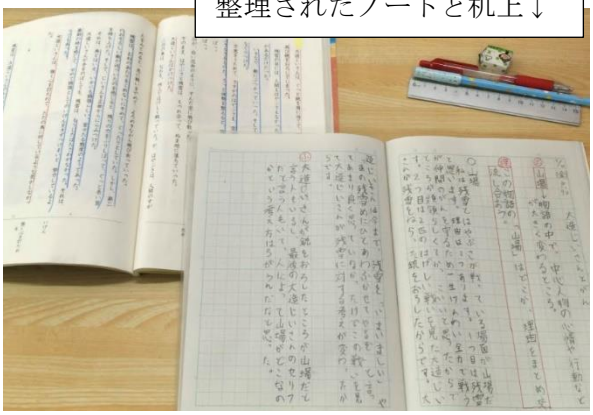
振り返りについて

① 自分がどのように変わったか。
・わかったことは、
・できるようになったことは

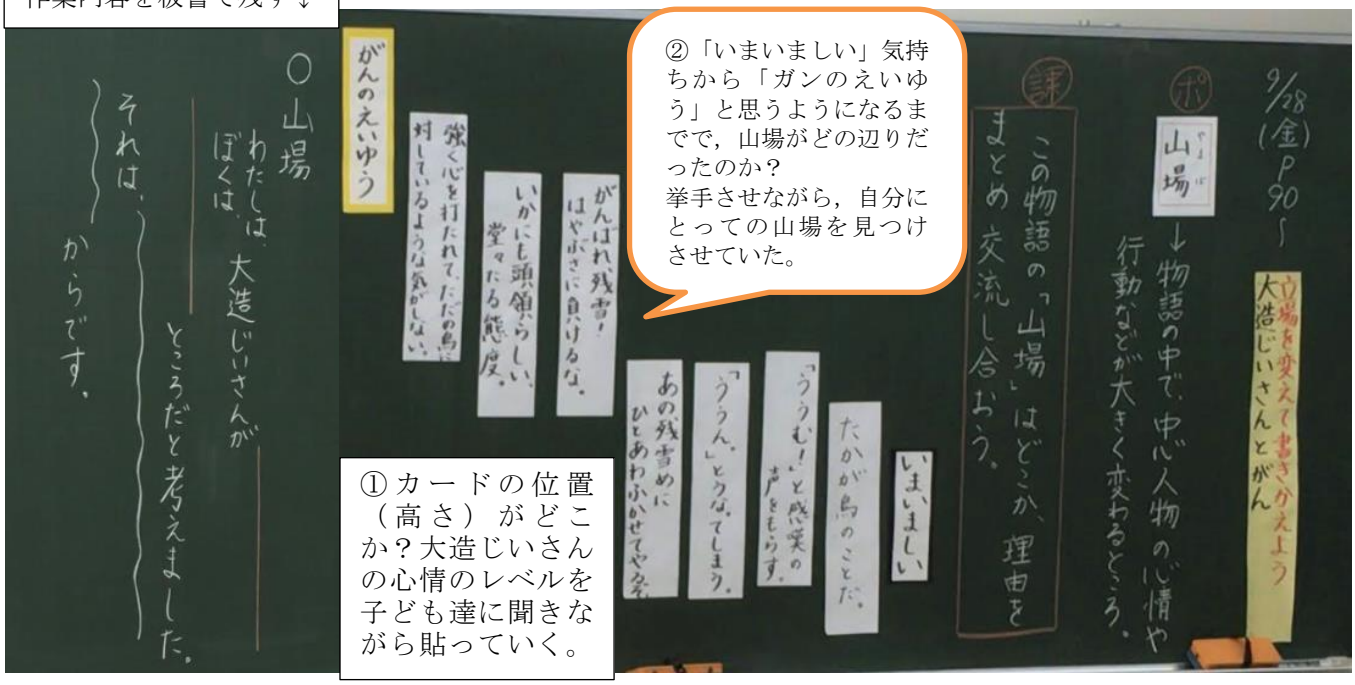
② 自分が変わった場面
・〜の時、あれ？と思った。
・〜が、なるほどと思った。
・（友達など）の言葉で、
・（友達）の話を聞いて、

③ 自分が変わった理由
・前の学習の〜とつながった。
・〜の考えでやってみたら、
・〜だったら、こういう時は

整理されたノートと机上↓



作業内容を板書で残す↓



②「いまいましい」気持ちから「ガンのえいゆう」と思うようになるまでで，山場がどの辺りだったのか？
挙手させながら，自分にとっての山場を見つけさせていた。

①カードの位置（高さ）がどこか？大造じいさんの心情のレベルを子ども達に聞きながら貼っていく。

4．特設公開授業　3年松組　「円と球」

＜教える＞前時に習得した半径を使って、直径とは何かを定義していった。

①半径について振り返り。

②直径の定義を教える

→円の中心を通らなければならないことを、円を２回折らせ作業させながら気づかせようとしていた。２回折って交点に「中心」と書かせ…直径と半径の関係で気づいたことはないか？たずね、その後で直径と半径を実際に測らせ，直径の半分が半径であること、半径の２倍が直径であることを気づかせようとしていた。

※まとめが長文化していたこと、まとめる点が多かったことから、落ちが弱いように思えた。

※授業者は、意図的に「円の直径と半径の関係」と「円の中心と直径の関係」の２つの内容を、同時に理解させようとしていた(教科書上のまとめもそうなっているが…)。
そのことからか↓

＜考えさせる＞

（１）理解確認

理解確認で円の直径 6cm の半径を求める問題では、6÷2 という式を立てられない人もちらほら…6-3 と立式していたり、6÷2 と立式しているのにも関わらず、3cm の 2 倍だからと説明したりしている子もいました。(教える場面で、立式し押さえる必要があった？みなさんならどうします？)

※「理解確認」は、児童につまずきを気付かせる場面であるということも分かるが、今回は授業者がそれを意図していたかは不明です。

（２）深化問題：身の周りにある円（時計やフラフープ）から直径と半径を求めさせる。

子どもたちの意欲を高める教材だった。しかし、「円の中心を通る」という大切な条件を守ることができていない班がいくつかあった。（円を紙に測り取らせ、２回折らせて中心を見つける）

授業最後の全体交流で、「中心」のことを意識できていなかったことに気づかせていた。深化問題に入ったのは、予定時間よりも５分以上遅れていた。しかし、途中で一度集めて、手短にできている班とできていない班を比べさせて、「ちょっとまてよ…」と気付かせてもよいのかなと感じた。

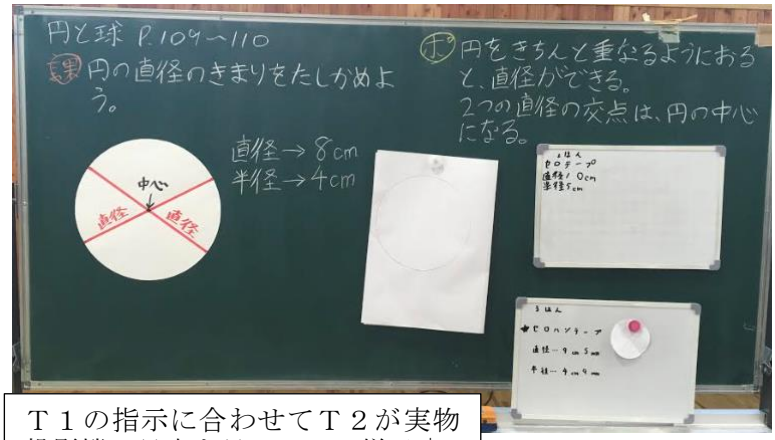
※市川氏は、深化問題で分からなかったときは、ヒントを出すと話されていました。

＜振り返り＞時間が足りませんでした。

←班毎に活動している様子→
右の班はフラフープを模造紙に写し取って、その後円が重なり合うように２回折りたたんで、頑張って中心を見つけていました！

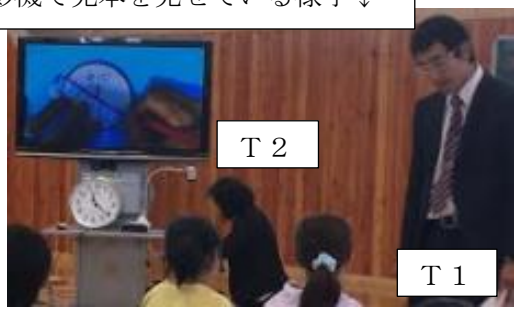
・Ｔ２が作業している様子を実物投影機に写させながらのＴ１が児童に解説していた。Ｔ１が子どもたちを見ながら余裕をもって作業の説明が行われており，効果的な連携の仕方だと感じた

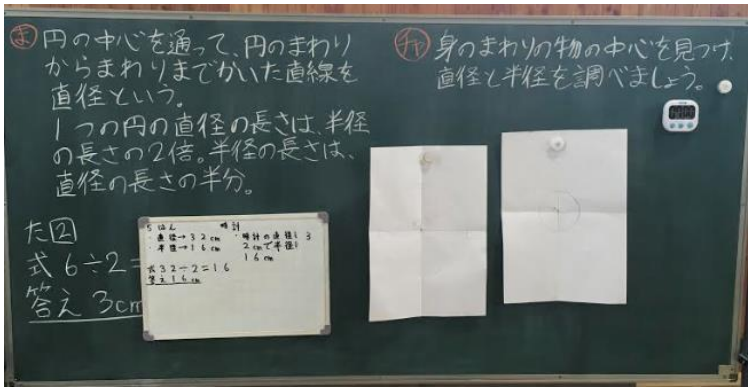
・本校のＯＫＪとの違いは、国語科も同様、まとめに入る前にポイントを板書している。どの学級も示されていました。児童の理解を助けるものだと感じましたが，板書量が多くなることへの不安も感じました。



Ｔ１の指示に合わせてＴ２が実物投影機で見本を見せている様子↓

↑全体交流の様子





5．研究協議（算数科）

（１）授業者より今日の授業のポイントと反省

・使える知識が身に付いているか？ということを検証したくてこのような授業を計画した。

（校内では、教える段階で身に付けた知識が、深化問題などで使えるかどうかが話題になったから。）

・「教える」で紙を折らせ、円の中心を見つけるという作業を通して、深化問題を達成するための重要な条件である「円の中心を通って」測ることができるように教えたかった。（いくつかの班で中心を通らずに、適当に直線をとって直径を出していたところがいくつかあったが…）

・長さを出すことがメインなのか？定義を理解することがメインなのか？悩んだ。

→直径の半分が，半径ということはまとめでいきなりでてくるので，どのように理解させるか？

（今回は、２回折らせた後に長さを測らせたことで理解させようとしたが、市川氏としては、直径の定義として円の中心を通ることを確認するだけで充分。円の２折り作業は必要ないとのこと。）

（２）市川氏より（もしも市川氏が本時をマイナーチェンジ／フルモデルチェンジするならば…）

☆「困難度査定」と「査定に対する指導上の工夫」を、ＯＫＪ授業を作る際に大事にしてほしいとのことでした。（本時における困難度査定と指導上の工夫は指導案をご覧ください。）

※困難度査定

「今日のこれを教えるとすると子どもはどこで困難を感じるだろうか？」「どこでつまずきやすいか？」「逆にここは簡単にクリアできるだろう」と指導案を作るときに査定すること。

マイナーチェンジ版

①教科書の図を使って、既習事項の半径が２つ分であることを簡単に確認する。
（本時のように、円を折らせて時間をかけて作業させなくても教科書の図を見させたら一目瞭然。）

②「円の中心を通っていないと直径とならないことを理解できない」という困難度査定を行い、直径中心を通る直径は無数にあることを示して教える。

※ワークシートを使って①②を手短に終える必要があるとのこと。

フルモデルチェンジ版（氏が実際に昔に指導した内容）

①マイナーチェンジ版のように手短に性質にして教える。

②追加して、「直径は円の端から端までで一番長いところ」を積極的に教える。
手順「中心が何も分からなくても、直径を出すことができる」「中心が分からなくても、直径ははかれる」ことを教える。10 円玉は折れない→中心は分からない→でも直径は測れる。
どうやって？→定規を挟んで測る。（それを大工道具にしたのがノギス）

③理解確認で、それぞれの硬貨の直径を定規で挟んで測らせる。

④理解深化で、円形の硬いボール紙でコマを作って回したい。でも中心がどこだか分かりません。
いったい中心を見つけるにはどうしたらよいでしょう？

☆今日習ったことを使わせて解決させる。

→ボール紙は折ったりしない、写したりしない、ボール紙にかくことはできる。
出張した先の３年生たちは、初めは分からなかったが、ちょっとヒントを出したら分かるグループがいくつか出てきた。

※ヒント…円を挟んだ時にできる「接点」を見つけると直径は引けることを教えた。

深化問題の答え：定規を挟んで、接点を見つけて接点に印を付けて、結ぶことで直径が １ 本できる。
もう１本違う場所を挟んで直径を引き、交わったところが中心となる。

氏曰く、「この問題は、難しいと考える先生がいるかもしれないけど、理解深化課題は，難しかったらヒントを出せばいいものだと私は考えている。」

６．全体会「学校力向上に関する総合実践事業について」「本校の研究について」
講演「習得における主体的・対話的で深い学び～算数・国語から道徳まで～」

○全体会について参考になった点（資料をご覧ください。）

・系統性を持って国語を指導するために、全学年の「ここが大事」を領域毎に１枚にまとめたプリントを作成して、統一した指導を行っているところ。「ここが大事」は指導要領とリンクしていることからもよいということでした。
・学習スタンダードを学年毎に集計・分析を行っているところ。
・全国学力・学習状況調査は、素早く解き直しや学び直しが行えるように、調査終了後１５時までに採点しデータ化をしているところ。
・研究授業毎に発行される「みなみの実践」の発行（研究概要・資料集をご覧ください。）

○<u>講演について学んだ点（資料をご覧ください。）</u>

・ＯＫＪは「習得サイクル」のことを指す。「探求サイクル」とは異なる。
　※「習得サイクル」においては、教師が教えるということが大切である。

・予習の意義は、授業内で生分かり状態にさせないことを防ぐためにすること。また、授業を受ける必要感を生ませるためにあること。予習でここが分からなかった→授業で分かるようになりたい。

・「主体的・対話的で深い学び」とするためにもＯＫＪは効果的な指導法であること。また、指導要領改訂において教師が「教える」ことの重要性が記されていること。
　→スライド２ｐ：中教審資料参照

・スライド３ｐ「円の面積：代替案」
　深化問題作成の工夫例：子どもたちに、どのように説明させるか？視点を変えるアイディア。

・スライド３ｐ「物語文読解における深い理解とは」
→市川流「大造じいさんとガン」（八戸の学校で去年の秋にＴＴとして実践した出張授業のビデオ）
　深い理解：この作品は自分にとってどんな意味があるのだろうか？
　　自分との結びつきを意識させる授業にするためにどう工夫したらよいか？
「大造じいさんとガン」…立派な登場人物たちに焦点を当てる。
　☆物語を自分ごととして捉えさせるために教材を活用
☆ただ単に、「登場人物の心情を読み取る」で終わらないために…
※単元の終末と思われることから、活用型の授業と考えられる。
本時の展開　※単元のゴールは詳細不明
＜教える＞
「第１のあっぱれ(ガンのすごかったところ)」
「第２のあっぱれ(大造じいさんのすごかったところ)」

＜考えさせる＞
○理解確認(チャレンジと掲示していたが…)
「第３のあっぱれ(作者のすごいところ)」
●深化
「第４のあっぱれ(自分たちは､この作品からどんなことを生活に生かしていけばあっぱれとなるか？」を見つけさせることで、物語を自分ごととして捉えさせ、自分たち人生に関わらせようとしていた。

＜ふりかえり＞
本時を通して、どんなことがわかったか？
「自分ごととして読む必要性が分かった。他の作品でも登場人物の生き方の素晴らしさを読み取り，自分の生き方に活かしていけるように読んでいきたい。」

・スライド３ｐ「道徳：多面的・多角的に考え議論する」

「ＯＫＪで、できることもある」

低・中学年は、何がよい行いで、何が悪い行いか？徹底させるのでもよい。

しかし高学年では、「そんなことは分かっているよ」と終わってしまう。

よい／悪いを深く理解させるためには？（善悪は、一面的に決められないことがよくある。）

→広い視野から考えさせる。（教えて考えさせる授業の事例集より）

例１

「泣いた赤鬼」を高学年で読み直す。

この作品を、単なる美談で終わらせてよいのだろうか？→もっと多面的に考えさせたい。

この作品は、美談という割にハッピーエンドで終わっていない。誰も幸せになってはいない。

去った方、残された方、いずれにしてもオニたちはその後、幸せなのだろうか？

もし、村人が真実を知ったら怒るかも知れない。

児童への問いかけ「結局最後誰も幸せに終わっていない、なんかまずかったんじゃないか？」

色々な立場毎（登場人物たち毎）によかった面，悪かった面を考えさせる。

※答えは決められない。

例２

・悪いことはしない、という難しさを理解させるために…（資料添付の指導案参照）

主題名：自分に誠実に　Ａ－（２）誠実・明朗

資料名「見えた答案（東京書籍）」

答案を見るのはよくないこと…当たり前すぎて高学年の児童たちに深い理解を与えられない。

→①葛藤を生じさせる。

嬉しい気持ち、悪い気持ちが何割ずつか？理由と併せて考えさせる。（心情メーター）

②「よかったという気持ちをサポートする働きが人間の心にはある」ことを教える。

次に，いいわけサポーターになったつもりでいいわけを考えさせる。

③いいわけサポーターを撃退するためにはどうしたらよいか？（役割演技をさせる。）

④いいわけサポーターを撃退した後に、主人公はどうすればよいか？を考えさせる。

※正解は，１つではない。

道徳的価値について頭では理解していても実行できないことがあることを教えて理解させた上で、克服するために必要なことを考えさせる。

とのことでした。

OKJ づくしの一日でしたが，OKJ 指導法の利点についてたくさん考えることができました。

参加させていただき誠にありがとうございました。